

平成 25 年度 事業報告書

学校法人 甲南女子学園

I. 学校法人の概要

学校法人甲南女子学園(以下「本学園」という。)は、大正 9 年(1920 年)に甲南高等女学校創立以来、「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「清く正しく 優しく 強く」を校訓として掲げると共に、「全人教育、個性尊重、自学創造」の教育方針を持ち、阪神間を代表する女子教育機関として、豊かな人間性を育みつつ、個性に応じた才能を伸ばす教育を実践してきました。

本学園は、甲南女子大学大学院(人文科学総合研究科・看護学研究科)、甲南女子大学(文学部・人間科学部・看護リハビリテーション学部)、甲南女子高等学校、甲南女子中学校で構成され、同窓生数は 50,000 名を超えています。甲南女子大学では、21 世紀型の女子大学として、グローバルな視野で、柔軟な思考と行動力を身に付けた女性を育成し、男女共同参画社会での豊かな社会づくりに貢献できる女性の育成を目指しています。また、甲南女子高等学校・同中学校では、知・徳・体のバランスの取れた人格の育成を基盤として、少人数教育による一層の教育成果の実現を目指しています。

今後、学校法人甲南学園、学校法人甲南学園甲南小学校・同幼稚園、一般財団法人甲南会(甲南病院他)及び本学園の甲南 4 法人の絆を更に深め、4 法人共通の創立精神のもと、それぞれの特色を強化し、更に英知を結集して、教育・医療における社会貢献を果たし、阪神間における甲南 4 法人の存在感をより一層高めていきたいと考えています。

1. 学生・生徒数等の推移(5月1日現在)

(単位:名)

区 分	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
○学生在籍者数				
人文科学総合研究科	45	33	29	25
看護学研究科	—	—	8	15
文 学 部	1,607	1,628	1,618	1,617
人間科学部	1,785	1,810	1,817	1,830
看護リハビリテーション学部	607	660	678	685
計	4,044	4,131	4,150	4,172
○生徒在籍者数				
高 等 学 校	484	488	495	502
中 学 校	523	536	546	546
計	1,007	1,024	1,041	1,048
○教職員数				
専任教職員	299	299	300	309
非常勤教職員	308	322	347	352
計	607	621	647	661

2. 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数の概要（平成25年5月1日現在）

学科・専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
文学部				
日本語日本文化学科	80	101	320	395
英語文化学科	120	153	480	548
多文化コミュニケーション学科	70	97	280	364
メディア表現学科	60	76	240	310
文学部計	330	427	1,320	1,617
人間科学部				
心理学科	90	112	360	444
総合子ども学科	120	145	480	561
文化社会学科	80	112	320	413
生活環境学科	80	97	320	412
人間科学部計	370	466	1,480	1,830
看護リハビリテーション学部				
看護学科	90	107	360	405
理学療法学科	60	75	240	280
看護リハビリテーション学部計	150	162	600	685
甲南女子大学 合計	850	1,075	3,400	4,132
大学院人文科学総合研究科 博士前期課程				
言語・文学専攻	9	1	18	3
心理・教育学専攻	13	4	26	13
社会・文化環境学専攻	9	0	18	1
博士前期課程計	31	5	62	17
大学院人文科学総合研究科 博士後期課程				
言語・文学専攻	3	0	9	1
心理・教育学専攻	3	3	9	5
社会・文化環境学専攻	3	0	9	2
博士後期課程計	9	3	27	8
大学院人文科学総合研究科計	40	8	89	25
大学院看護学研究科 修士課程				
看護学専攻	5	7	10	15
大学院看護学研究科計	5	7	10	15
大学院 合計	45	15	99	40
甲南女子中学校・高等学校				
甲南女子中学校	180	181	540	546
甲南女子高等学校	180	170	540	502
甲南女子中学校・高等学校計	360	351	1,080	1,048

Ⅱ. 事業の概要

1. 事業の概況

本学園を取り巻く環境は、少子化の進行、学校間競争の激化、経済不況等、ますます厳しさを増しています。かかる状況下で本学園は、93年にわたる甲南女子教育の伝統と実績をもとに、常に中学校、高等学校、大学及び大学院における女子教育の新しいあり方を追求するとともに、中長期の視点から健全財政の実現と経営基盤の更なる安定・強化に取り組んでいます。具体的には、建学の理念を基盤に「教員力・職員力の向上」「優秀な入学者の確保」「学士力の向上」「就職率の向上」「甲南女子ブランドの向上」を戦略目標とする第2次全学中期計画(平成24年度から26年度)を策定し、これを学園全体で共有し、PDCA(Plan Do Check Action)サイクルを回しています。中高では管理棟マルチメディア教室、特別棟PC教室の情報機器を更新し、より機能的なIT環境を整備しました。また、体育館外壁及びアーチェリー場の人工芝補修など、教育環境の整備に努めています。大学キャンパスについても10年構想をもとに、将来の学習環境整備に着手しています。

大学院においては、看護学研究科(修士課程)を開設し、質の高い高度な看護実践を支える教育・研究者及び指導者、特定の専門看護分野で活躍できる専門看護師の養成を目指した教育課程を編成しています。

甲南女子大学では、総合子ども学科の一層の充実のために「社会福祉法人甲南愛育会」を設立し、「甲南保育園」を神戸市東灘区森南町に開園し、6年目を迎えるようとしています。学生寮としては、「Konan Clover House」(一人部屋、定員155名)を神戸市東灘区甲南町に設置しています。

中高では、新校舎の使用が2年目となり、各学年5クラス、中・高6学年30クラスが同じ校舎で学んでいます。また、全コースが週6日制となって2年目となりました。Sアドバンストコースは、開設6年目の完成年度となり、中学1年生から高校2年生までは各2クラス、高校3年生は1クラス、計11クラスとなりました。

2. 大 学

(1)教育体制

文学部においては、平成24年度に、英語英米文学科の学科名称を英語文化学科と変更し、科目体系の再構築を行い、卒業単位に占める学科専攻科目の単位数を増やし、より実践的な英語力を身に付けることができるカリキュラムにしました。

看護リハビリテーション学部では、4回目の卒業生を送り出し、看護学科では、看護師国家試験について全員合格とはならなかったものの98.8%という高い合格率となりました。理学療法学科では、理学療法士国家試験について昨年度の94.9%に引き続き、平成25年度も98.2%の高い合格率を維持することができました。看護師国家試験、理学療法士国家試験合格率ともそれぞれ全国平均を大きく上回り、目覚ましい成果を上げました。

看護師・保健師・助産師・理学療法士 国家試験結果

	職 種	受験者数(人)	合格者数 (人)	合格率(%)	全国平均 (%)
4 期生 (平成 26 年 2 月受験)	看護師	83	82	98.8	89.6
	保健師	70	61	87.1	86.5
	助産師	5	5	100	96.9
	理学療法士	57	56	98.2	83.7
3 期生 (平成 25 年 2 月受験)	看護師	104	104	100	88.8
	保健師	97	96	99.0	96.0
	助産師	4	4	100	98.1
	理学療法士	59	56	94.9	88.7
2 期生 (平成 24 年 2 月受験)	看護師	70	70	100	90.1
	保健師	60	53	88.3	86.0
	助産師	2	2	100	95.0
	理学療法士	77	71	92.2	82.4
1 期生 (平成 23 年 2 月受験)	看護師	59	59	100	91.8
	保健師	55	53	96.4	86.3
	助産師	4	4	100	97.2
	理学療法士	50	40	80.0	74.3

大学院においては、平成 24 年度に看護学研究科を設置し、平成 25 年度末に初の修士課程修了者を出しました。

大学院(専攻)・学部(学科) 一覧 (平成 25 年度)

大学院	人文科学総合研究科 (博士前期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻
	人文科学総合研究科 (博士後期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻
	看護学研究科 (修士課程) 看護学専攻
学部	文学部 日本語日本文化学科 英語文化学科 多文化コミュニケーション学科 メディア表現学科
	人間科学部 心理学科 総合子ども学科 文化社会学科 生活環境学科
	看護リハビリテーション学部 看護学科 理学療法学科

(2)教育活動

学部学科における専攻科目は、社会情勢の変化に応じて、見直しを行っています。

甲南大学との大学間連携講座に関しては、前年度に引き続き本学の学生が甲南大学の授業を受講しています。また、甲南大学からも前年度に引き続き本学科目を受講し、単位互換での交流が進んでいます。

本学園内でも、高校から大学への進学者を増やすために、平成 20 年度に大学と甲南女子高等学校で協定書を締結し、以降毎年大学で高大連携講座「大学講座」を開講しています。平成 25 年度は年間を通じて 69 名の高校生が本講座を受講しました。

(3)外国語教育

外国語教育については、入学直後に英語統一試験を行い、その結果を用いて習熟度別クラス編成を行うなど、実践的な英語力の向上への取り組みを継続的に行っています。また、英語以外の外国語についても、入学直後の学生に初習外国語説明会を開き、各言語教育担当教員から、言語の特徴や社会的ニーズなどを学生に説明し、初習外国語の履修を促す取り組みを行っています。平成 25 年度はフランス語、ドイツ語、インドネシア語、韓国語、中国語の 5 言語を開講しました。

(4)国際交流

平成 25 年度は、前年度に協定を結んだアイルランドのヨーク大学の夏期語学研修に初めて学生 10 名を派遣しました。ネパールでのスタディーツアーも開始し、6 名の学生が参加しました。アメリカの西イリノイ大学に認定留学に派遣した 10 名の学生全員に奨学金が授与されたことから、今後さらに同大学との国際交流に関する協力を深めていく予定です。学内での国際交流の機会を学生に提供するために、国際交流サポーターという学生ボランティアを組織し、交換留学生とのバスツアーや、留学生と親睦を図るための機会を設けることにより、留学に行くことが出来ない学生にも学内で国際性を涵養する機会を設けました。また、韓国の淑明女子大学校からの訪日文化研修団 11 名の研修を行い、淑明女子大学校の学生と本学学生との交流が深まりました。今後、さらに国際交流協定校を増やし、本学の第 2 次中期計画の重点項目である「国際化の推進」を進めます。

【平成 25 年度実績】

交換留学：(中国) 天津外国語大学 (受入 1 名、派遣 1 名) (韓国) 淑明女子大学校 (受入 1 名、派遣 2 名)、誠信女子大学校 (受入 4 名、派遣 3 名) (フランス) パリ第 7 大学 (受入 1 名) **認定留学：**(アメリカ) 西イリノイ大学 WESL (10 名)、(カナダ) リジャイナ大学 ESL (10 名)、(イギリス) リーズ大学ランゲージセンター (4 名) (ニュージーランド) CCEL クライストチャーチ校 (4 名)、(フランス) ナント大学 IRFFLE (2 名)、(韓国) 淑明女子大学校 国際言語教育院 (10 名)、(中国) 天津外国語大学 国際交流学院 (1 名)、(インドネシア) ダルマシスワ国費留学 (5 名)

語学文化研修・スタディーツアー：(カナダ) リジャイナ大学 ESL (夏 7 名、春 18 名)、(アイルランド) コーク大学ランゲージセンター (10 名)、(フランス) パリ CAFJ (9 名)、(韓国) 淑明女子大学校 国際交流言語教育院 (12 名)、(タイ) プラティープ財団「生き直しの学校」を訪ねる旅 (18 名)、(ネパール) ネパールスタディーツアー (6 名)

海外研修：(韓国) 海外日本語教育実習 (7 名)

(5)情報教育

情報化社会に対応し、初級から上級者向けの科目を全学共通科目に設けています。

8 号館 8 4 2 教室及び 9 号館 9 4 1 教室に設置しているコンピュータのハードウェア及びソフトウェアを更新し、動画編集作業が行える環境を整備しました。併せて、全コンピュータ教室に授業支援ソフトを導入することにより、学習支援環境の改善を行いました。

(6)学生生活

社会化学習への支援として毎年マナー教育を行っており、共通教育科目「大学探検」の授業や学科単位で行うマナー講座を提供しました。

また、毎年増加傾向にある奨学金希望者に対して説明会を数多く行い、希望者への対応を行っています。現在本学学生の 3 人に 1 人が奨学生です。

学生の健康面では、保健センターが学生及び教職員の心と身体の健康をサポートしています。

また、医師による健康相談日を拡大して利用者が大きく増えました。

その他、AED を 4 台増設し、総務課と連携して職員への AED 講習会を実施しました。

(7)課外活動

軟式庭球部 西日本学生大学対抗ソフトテニス選手権大会 第3位
洋弓部 兵庫県室内アーチェリー大会 個人優勝
ゴルフ部 関西学生ゴルフ連盟1部昇格
チアリーディング部 第25回全日本学生選手権大会 決勝進出

(8)就職活動

平成25年度の就職状況は、経済環境が改善され、企業の採用意欲が高まり始め、全体として採用数は増加傾向にありました。就職課では、企業の採用数増とともに、社会に貢献する人材育成を目指すために以下の点に注力し取り組みました。

- ①就職ガイダンスや就職対策総合講座等の就職支援プログラムの充実
- ②各種面接試験のための実践講座数の増加を図る
- ③地元中小企業に強い新卒応援ハローワークとの連携強化
- ④病院等施設への医療事務求人開拓の実施

以上のように各支援プログラムを強化した結果、平成25年度は就職率93.5%となり、前年度を1%上回ることができました。また、これまで卒業者に対する就職希望者の比率が他大学と比較すると低い状況にありましたが、低学年からのガイダンスなどの様々な取り組みが成果となって現れ、大学として就職希望率は84.5%という高い数字となり、就職への意識が高まったことを表しています。また、資格サポートセンターでは、従来のパソコン系や秘書検定等の支援に加え、徐々に希望者が始めている公務員対策を強化し、学生の希望に沿った様々な就職先に対応する実践講座を提供しています。

(9)大学開放

毎年、10月の第4土・日曜日に大学祭を実施し、学内外の多くの方に参加していただいています。また、土曜日には同窓生を招く、第32回ホームカミングデーを実施しました。卒業生の参加者は587名で、クラス会には12組206名の参加がありました。

さらに大学が有する人的・物的・知的資源を広く学外へ提供する公開講座・研修会等を実施しました。

【公開講座】「身体をいたわり健康ライフ!」、東日本大震災復興支援ドキュメンタリー映画上映会

【地域交流】「甲南子育てひろば」、本山第三小学校「町たんけん」、東灘区役所「夏休み子どもいろいろ体験スクール」

【芸術文化】「芦屋交響楽団」芦原講堂開放

【その他】あしなが育英会「ツデーのつどい」体育館開放

(10)学生募集

平成25年度は18歳人口が、最低の118万人でしたが、平成19年度に3学部10学科を編成してから、最高の志願者数11,059名を集めることができました。

また、質的向上を最優先重要課題として取り組み、ほぼ一定の成果がありました。これは、学園広報、大学広報、入試広報をそれぞれ効果的に行われるよう、緊密に相互の連携を図り、パンフレット他広告媒体など内容を充実させたことです。目的や目標別に絞り込んだ広告物などを作成し、効率的に学生募集広報を行いました。また、高校訪問及び入試説明会参加を増やし、オープンキャンパスの内容充実を図りました。

(11) ベスト・ティーチャー賞

学生に対する授業評価アンケートを参考として、大学教員(1名)に「ベスト・ティーチャー賞」を授与しました。

(12) 地域貢献

対外協力センターの社会貢献室では、学生の「学び」と「地域」をキーワードに学生のボランティア活動のサポートや地域貢献活動に取り組みました。平成 25 年度に社会貢献室・ボランティアセンターにおいてボランティア登録を行った学生は 1,130 名(前年度 960 名)に達し、新規ボランティア派遣先 20 団体を含む計 39 団体に学生を派遣しました。

対外協力センター発足から 5 年目を迎え、より「地域」に密着した社会貢献活動に取り組みました。地元商店街と共に年 2 回岡本の街の清掃活動を行う「岡本一斉クリーン作戦」には、今年は 119 名の学生・教職員が参加しました。

また、平成 24 年度に引き続き、岡本商店街の「ハロウィーン」イベントに 119 名、「お菓子の家」イベントに 10 名の学生を派遣し、商店街の活性化に貢献しました。

恒例行事となったチャリティーコンサートは、芦原講堂において 2 回実施し、コンサート以外にも東日本大震災復興支援企画(チャリティー上映会)を実施する等、地域に開かれた大学としての役割を果たしました。なお、チャリティーイベントで集まった募金総額の 1,061,908 円は、全額あしなが育英会「東北レインボーハウス」の建設・運営費として寄付しました。

平成 25 年度における新たな取り組みとして、大丸神戸店と本学学生 30 名による食品コラボレーション企画が実現し、大丸地下食品街にて学生考案商品が販売されたほか、メディア表現学科学生と東灘連合婦人会とが協働で和服メイクファッションショーを手がけ、世代交流を通して東灘区の活性化に寄与しました。

(13) 施設関連

経年劣化による施設・設備の改修をはじめ、学習環境等の整備及び省エネ推進等を実施しました。

主なものとしては、第1学生会館熱源改修、第3学生会館外壁等補修及び8号館高圧機器改修を行いました。

また、ゴルフ練習場擁護壁改修や図書館横のアーケードを改修するなど学生にとって、安全で快適なキャンパス環境の提供に努めました。

平成 21 年度から順次設置している温水洗浄便座を図書館、書庫、5号館、第3学生会館、クラブハウスに設置しました。また、9号館に新たな組織として発足する教職支援センターの居室の工事を実施しました。

3. 中学校・高等学校

(1)教育活動

中学1年生は、入学前に4月1日から3日間、中学生としての自立や友達作りを目的としたスプリングセミナーを実施しました。中学2年生は、「総合平和」学習の授業の一環として、10月に広島への研修旅行を実施しました。中学3年生は、7月に3日間の保育体験学習を実施し、2月にはウィンタースポーツ実習として長野のスキースクールで実習に取り組みました。

高校1年生は、7月にスプリングセミナーとして3日間の勉強合宿に取り組み、10月末から11月にかけては「総合探求」学習の一環として水俣への研修旅行を2泊3日で実施しました。高校2年生は、8月にサマーセミナーとして勉強合宿に取り組み、11月には沖縄への修学旅行を実施しました。

また、全校行事として、2月に「学習成果発表会」を、甲南学園（大学、高校・中学校）、甲南小学校、との三学園合同で開催しました。

(2)生徒指導

生徒指導部と生徒自治会の「和光会」が中心となって、「あいさつ」の励行や頭髪・容儀の指導を随時行っています。登下校時は、学期ごとに当番を組み、最寄駅(阪急芦屋川駅、JR 甲南山手駅)での指導を続けました。また、校内美化として、毎日昼食後の15分間、生徒全員で全校清掃を行っています。また、啓蒙活動のため、生徒指導部と和光会で「マナービデオ」を作成しました。

(3)進路指導

①習熟度別指導

高2の英語・数学、高3の英語・数学・国語で、習熟度別指導を実施しました。文系・理系、基礎・応用などのグループ分けで学習意欲が高まり、特に理系で実力の向上が見られました。

②面談・的確な進路情報の提供

生徒の自己実現を支援するため、個人面談を繰り返し行いました。また、各学年の集会や保護者会で進路に関する外部講師を積極的に登用し、的確な進路情報の提供に努めました。

③進路結果

コース設置から6年、「国公立大学を目指す」ことを目的としたSアドバンストコースで初めての卒業生を送り出しました。国公立大学の合格者は、昨年度15名（うち現役生14名）から今年度は33名（うち現役生31名）、と倍増しました。私立大学についても関西の合格者は昨年並みでしたが、関東方面の合格者が増え、全体として進路実績を大きく伸ばした年となりました。

(4)環境学習

甲南学園（大学、高等学校・中学校）、甲南小学校との三学園による農業体験学習を、6月・10月・2月の3回実施しました。また、9月には住吉川環境学習を実施しました。

(5)行事

文化祭と体育大会を一体化させた新しい行事として、「Konan Girls'

Festival (=KGF)」を4月に実施しました。生徒と教員が前年6月から会議をもち、文化祭は文化祭実行委員が、体育大会は体育委員が中心となって運営しました。文化祭は家族や友人に公開され、卒業生や受験生などとともに、3,894名の来校者が訪れました。体育大会では、全校生徒が4つの色(赤・白・黄・緑)の「団」に分かれ、6年間同じ団に所属することで、高3から中1までが一つのチームとなり、他の団と競い合う、他校にない特長です。平成25年度は、1,004名の来校者が訪れ、応援合戦を中心に大きな盛り上がりを見せました。平成25年度には「校内文化祭」や運動部による「招待試合」など、新たな取り組みもあり、新しい行事を自らの手で創り上げたことで、生徒の大きな成長が見られました。

(6)土曜日活用

平成24年度より全学年・全コースとも週6日制となり、土曜日は、スタンダードコースは午前3時間、Sアドバンストコースは午前4時間の通常授業を行っています。また、午後を利用して、高校1年生から3年生の希望者を対象に補習授業を実施しました。

(7)国際交流

下表の通り実施しました。

期間	相手国：学校名	送出	受入
長期	ドイツ：デートリッヒ・ボンヘッファー・ギムナジウム	1名 9月～翌7月	
	ドイツ：(YFU) ゲッコウ・ギムナジウム	1名 4月～12月	
	イギリス：クィーンズウッド	1名 9月～翌7月	
中期	オーストラリア：セントマーガレッツ・アングリカン・ガールズ・スクール		2名 10月～11月
短期	カナダ：カルガリーでのホームステイと英語研修	夏休み 13日間	
	イギリス：クィーンズウッド		11名 4月
	イギリス：セントヘレンズ		3名 (10月)
	ハワイ：ル・ジャルダン		1名 (6月)
	ハワイ：プナホウ・ハイスクール		1名 (6月)
	韓国：培花女子高校		3名 (2月)

(8)課外活動

講堂朝礼で以下のような表彰を行いました。

<部活動>

【アーチェリー部】

- 平成 25 年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会
高円宮賜杯第 45 回全国高等学校アーチェリー選手権大会 個人 22 位
- 第 68 回国民体育大会 少年女子団体 5 位（兵庫県代表として 2 名参加）

【弓道部】

- 第 9 回近畿中学生大会 団体 優勝
- 第 68 回国民体育大会 少年女子遠的の部団体 4 位（兵庫県代表として 1 名参加）

【コーラス部】

- 第 68 回関西合唱コンクール 中学コーラス部 中学女声合唱の部 銀賞
- 平成 25 年度こども音楽コンクール西日本優秀校発表音楽会 中学コーラス部 優秀賞

【放送部】

- 第 30 回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト全国大会 朗読部門 最優秀賞

(9)安全教育

4 月と 2 月に全校で「自衛消防総合訓練」を実施しました。5 月には教職員対象に「AED心肺蘇生法講習会」を実施しました。12 月には生徒を対象に「防犯教室」を開催しました。

生徒が多数下校する 15 時 45 分から 17 時 45 分には、安全巡視員の巡回による不審者対策を講じました。特に治安が心配される甲南山手駅北側の阪急の地下道には、15 時 30 分から 17 時 30 分の 2 時間、教員による「立ち番」を設け、安全対策に努めました。

(10)生徒募集

ホームページや駅看板等のメディア、説明会への参加等を中心に生徒募集を実施しました。本校を会場とした学校説明会は、6 月、10 月、11 月の 3 回実施しました。入試直前の 12 月には個別相談会も実施しました。また、土曜日の午後に実施していた説明会を日曜日にも開催したことで、4 回合計 905 組の来校者を得ました。校外では 6 月に塾対象の説明会をルナホールで実施しました。結果、平成 26 年度入試では、S アドバンストコース 2 クラス、スタンダードコース 3 クラスの募集に対し、志願者数は 648 名でした。最終的な実質倍率は、S アドバンストコース 1.47 倍、スタンダードコース 1.18 倍、全体で合計 1.21 倍となり、182 名の入学生を確保することができました。少子化・共学志向が強まり他校が定員確保に苦戦する中、スタンダードコース志願者は昨年より増加、S アドバンストコース志願者は減少しましたが、全体としては、ほぼ昨年度と同じ志願者を得て、新入生の定員を確保することができました。

Ⅲ. 財務の概要

(1)平成 25 年度決算の状況

【資金収支計算書】

【収入の部】

(単位:千円)

科目	H25 年度決算	H24 年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金収入	5,894,530	5,842,501	52,029	100.9%
手数料収入	118,018	121,505	△3,487	97.1%
寄付金収入	18,550	22,740	△4,190	81.6%
補助金収入	480,444	554,388	△73,944	86.7%
資産運用収入	339,284	189,292	149,992	179.2%
資産売却収入	8,832,082	5,901,650	2,930,432	149.6%
事業収入	79,193	86,150	△6,957	91.9%
雑収入	195,510	217,907	△22,397	89.7%
前受金収入	1,072,005	1,100,965	△28,960	97.4%
その他の収入	851,194	1,051,168	△199,974	80.9%
資金収入調整勘定	△1,301,364	△1,335,536	34,172	97.4%
計	16,579,446	13,752,730	2,826,716	120.5%
前年度繰越支払資金	4,705,528	4,282,349	423,179	109.8%
収入合計	21,284,974	18,035,079	3,249,895	118.0%

『収入の状況』

資金収入計(前年度繰越支払資金を除く)は、前年比 28 億 26 百万円増の 165 億 79 百万円となりました。主な増加は、資産売却収入 29 億円増(国債・社債・国庫短期証券の償還収入増)によるものです。主な減少は、その他の収入 1 億 99 百万円減(積立金の定期預金満期 2 億円減)によるものです。

【支出の部】

(単位:千円)

科目	H25 年度決算	H24 年度決算	増減	増減率
人件費支出	3,730,967	3,760,502	△29,535	99.2%
教育研究経費支出	1,107,975	1,146,718	△38,743	96.6%
管理経費支出	482,571	482,600	△29	99.9%
施設関係支出	252,523	338,829	△86,306	74.5%
設備関係支出	215,105	324,426	△109,321	66.3%
資産運用支出	9,748,686	6,995,503	2,753,183	139.3%
その他の支出	498,904	504,339	△5,435	98.9%
資金支出調整勘定	△265,632	△223,366	△42,266	118.9%
計	15,771,099	13,329,551	2,441,548	118.3%
次年度繰越支払資金	5,513,875	4,705,528	808,347	117.1%
支出合計	21,284,974	18,035,079	3,249,895	118.0%

『支出の状況』

資金支出計（次年度繰越支払資金を除く）は、前年比 24 億 41 百万円増の 157 億 71 百万円となりました。主な増加は、資産運用支出の 27 億 53 百万円増で内訳は有価証券の長期運用(国債・財投機関債・定期預金)53 億 49 百万円、1 年以内の短期運用(国庫短期証券)44 億円です。

一方、主な減少は、人件費支出 29 百万円減、教育研究経費支出 38 百万円減、施設関係支出 86 百万円減、設備関係支出 1 億 9 百万円減によるものです。

【資金収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H25 年度決算	H24 年度決算	増減	増減率
資金収支差額	808,347	423,179	385,168	191.0%

*資金収支差額=資金収入計-資金支出計

『資金収支差額の状況』

資金収支差額は前年比 3 億 85 百万円増の 8 億 8 百万円となりました。この結果、次年度に繰越される支払資金は 55 億 13 百万円となりました。

平成 25 年度の主な施設設備整備事業は次のとおりです。

大学

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 土地購入（芦原講堂横） | 50,827 千円 |
| 2. 第 1 学生会館熱源改修工事 | 138,600 千円 |
| 3. 図書館他温水洗浄便座工事 | 25,410 千円 |
| 4. 教職支援センター設置工事 | 10,500 千円 |
| 5. 学内無線 LAN 設備 | 37,226 千円 |

中高校

- | | |
|--------------------------|-----------|
| 1. マルチメディア教室 PC 教室情報機器更新 | 28,356 千円 |
|--------------------------|-----------|

【消費収支計算書】

【消費収入の部】

(単位:千円)

科目	H25 年度決算	H24 年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金	5,894,530	5,842,501	52,029	100.8%
手数料	118,018	121,505	△3,487	97.1%
寄付金	22,993	26,143	△3,150	87.9%
補助金	480,444	554,388	△73,944	86.6%
資産運用収入	339,284	189,292	149,992	179.2%
資産売却差額	263,896	3,880	260,016	6801.4%
事業収入	79,193	86,150	△6,957	91.9%
雑収入	195,764	217,907	△22,143	89.8%
帰属収入合計	7,394,122	7,041,766	352,356	105.0%
基本金組入額合計	△317,290	△157,313	△159,977	201.6%
消費収入の部合計	7,076,832	6,884,453	192,379	102.7%

『消費収入の状況』

(1) 学生生徒等納付金

学生数の増加により、前年比 52 百万円増の 58 億 94 百万円となりました。期中の学生生徒数は 5220 名(平成 25 年 5 月 1 日現在)です。

(2) 手数料

前年比 3 百万円減の 1 億 18 百万円となりました。手数料の主なものは、入学検定料 1 億 10 百万円です。

(3) 寄付金

前年比 3 百万円減の 22 百万円となりました。主な寄付金は、中高校への教育環境整備資金として 18 百万円を受入ました。

(4) 補助金

前年比 73 百万円減の 4 億 80 百万円となりました。主な補助金は私立大学等経常費補助金 1 億 49 百万円、私立高等学校等 IT 教育設備補助金 13 百万円、兵庫県私立学校経常費補助金 3 億 7 百万円です。

(5) 資産運用収入

前年比 1 億 49 百万円増の 3 億 39 百万円となりました。有価証券、積立特定資産、運転資金等の受取利息 3 億 33 百万円及び施設設備利用料 5 百万円です。

(6) 資産売却差額

前年比 2 億 60 百万円増の 2 億 63 百万円となりました。主なものは、有価証券償還差額の 2 億 63 百万円です。

(7) 事業収入

主なものは、大学学生寮の寮費 79 百万円です。

(8) 雑収入

主なものは、退職金財団交付金収入 1 億 78 百万円及びその他の雑収入 16 百万円です。

この結果、帰属収入合計は前年比 3 億 52 百万円 (5.0%)増の 73 億 94 百万円となりました。

【消費支出の部】

(単位:千円)

科目	H25 年度決算	H24 年度決算	増減	増減率
人件費	3,658,050	3,693,463	△35,413	99.0%
教育研究経費	1,815,885	1,859,862	△43,977	97.6%
管理経費	543,442	547,993	△4,551	99.1%
資産処分差額	19,393	393,708	△374,315	4.9%
徴収不能引当金繰入額	1,837	3,770	△1,933	48.7%
消費支出合計	6,038,607	6,498,796	△460,189	92.9%

減価償却額の内訳

内訳	H25 年度決算	H24 年度決算	増減	増減率
教育研究経費	707,910	713,144	△5,234	99.2%
管理経費	60,870	65,393	△4,523	93.0%

『消費支出の状況』

(9)人件費

前年比 35 百万円(1%)減の 36 億 58 百万円となりました。期中の本務教職員数は 309 名、兼務教職員数は 352 名で、帰属収入に占める人件費割合は 49.5%(前年同比率 52.5%)となりました。

(10)教育研究経費

前年比 43 百万円(2.4%)減の 18 億 15 百万円となりました。減価償却額を除く経費は 11 億 7 百万円(前年比 3.4%減)で、前年度より 38 百万円減少しました。帰属収入に占める教育研究経費の割合は 24.6%(前年同比率 26.4%)となりました。

(11)管理経費

前年比 4 百万円(0.9%)減の 5 億 43 百万円となりました。帰属収入に占める管理経費の割合は 7.3%(前年同比率 7.8%)となりました。

(12)資産処分差額

前期計上の建物処分差額 3 億 59 百万円が無くなったことにより、前年比 3 億 74 百万円(95.1%)減の 19 百万円の設備処分となりました。

(13)徴収不能引当金繰入額

学費の徴収不能引当金で 1 百万円を計上しました。

この結果、消費支出合計は前年比 4 億 60 百万円(7.1%)減の 60 億 38 百万円となりました。

【収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H25 年度決算	H24 年度決算	増減	増減率
当年度消費収入超過額	1,038,225	385,657	652,568	269.2%
前年度繰越消費収入超過額	5,396,144	5,010,487	385,657	107.7%
翌年度繰越消費収入超過額	6,434,369	5,396,144	1,038,225	119.2%

『基本金組入・消費収支差額の状況』

第 1 号基本金は、施設設備の取得総額 3 億 17 百万円を組入ました。

『帰属収支差額の状況』

(単位:千円)

帰属収支差額	H25 年度決算	H24 年度決算	増減	増減率
帰属収入—消費支出	1,355,515	542,970	812,545	249.6%

当期は前年度より 8 億 12 百万円(249.6%)増加し 13 億 55 百万円となりました。帰属収入に対する割合は 18.3%(前年同比率 7.7%)となりました。

【貸借対照表】

【資産の部】

(単位:千円)

科目	H25 年度末	H24 年度末	増減	増減率
固定資産	40,079,179	39,619,376	459,803	101.1%
有形固定資産	21,062,603	21,364,593	△301,990	98.5%
土地・建物・構築物	17,196,867	17,472,596	△275,729	98.4%
機器備品・図書・車輛	3,865,736	3,891,997	△26,261	99.3%
その他の固定資産	19,016,576	18,254,783	761,793	104.1%
特定資産・有価証券	18,880,078	18,099,521	780,557	104.3%
教育ソフトウェア他	136,498	155,262	△18,764	87.9%
流動資産	5,739,209	4,999,864	739,345	114.7%
現金預金	5,513,875	4,705,528	808,347	117.1%
未収入金他	225,334	294,336	△69,002	76.5%
資産合計	45,818,388	44,619,240	1,199,148	102.6%

『資産の状況』

固定資産は、4億59百万円増加し400億79百万円となりました。

その他の固定資産のうち特定資産(積立金)は7億80百万円増加しました。

流動資産は、7億39百万円増加し57億39百万円となりました。これは主に現金預金が8億8百万円増加したことによるものです。

この結果、資産総額は前年度より11億99百万円増加し458億18百万円となりました。

【負債の部】

(単位:千円)

科目	H25 年度末	H24 年度末	増減	増減率
固定負債	1,217,153	1,314,056	△96,903	92.6%
退職給与引当金	1,202,329	1,275,246	△72,917	94.2%
長期未払金	14,824	38,810	△23,986	38.1%
流動負債	1,520,645	1,580,109	△59,464	96.2%
前受金	1,072,005	1,100,965	△28,960	97.3%
短期未払金他	448,640	479,144	△30,504	93.6%
負債合計	2,737,798	2,894,165	△156,367	94.5%

『負債の状況』

退職給与引当金が72百万円、長期未払金が23百万円減少し、流動負債も59百万円減少したため、負債総額は前年度より1億56百万円減少し27億37百万円となりました。

【基本金の部】

(単位:千円)

科目	H25 年度末	H24 年度末	増減	増減率
第 1 号 基 本 金	34,936,221	34,618,931	317,290	100.9%
第 3 号 基 本 金	1,210,000	1,210,000	0	100.0%
第 4 号 基 本 金	500,000	500,000	0	100.0%
基本金合計	36,646,221	36,328,931	317,290	100.9%

【消費収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H25 年度末	H24 年度末	増減	増減率
翌年度繰越消費収支 差額	6,434,369	5,396,144	1,038,225	119.2%

【負債、基本金、消費収支差額の部合計】

(単位:千円)

科 目	H25 年度末	H24 年度末	増減	増減率
負債、基本金、消費収支 差額計	45,818,388	44,619,240	1,199,148	102.6%

(正味財産)

(単位:千円)

基本金+消費収支差額	H25 年度末	H24 年度末	増減	増減率
	43,080,590	41,725,075	1,355,515	103.2%

『正味財産の状況』

当期において3億17百万円を第1号基本金へ組入たため、基本金総額は366億46百万円となりました。この結果、総資産から総負債を差し引いた正味財産は前年度より13億55百万円増加し430億80百万円となりました。

(2)財務状況の推移

消費収支計算書(5ヵ年)

(単位：千円)

科目	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
学生生徒等納付金	5,217,918	5,663,438	5,814,871	5,842,501	5,894,530
手数料	108,244	122,941	116,967	121,505	118,018
寄付金	49,655	45,770	96,607	26,143	22,993
補助金	650,695	671,756	544,779	554,388	480,444
資産運用収入	278,106	224,662	188,147	189,292	339,284
資産売却差額	746	150,327	0	3,880	263,896
事業収入	84,907	84,345	82,415	86,150	79,193
雑収入	115,583	167,221	224,271	217,907	195,764
帰属収入合計	6,505,854	7,130,460	7,068,057	7,041,766	7,394,122
基本金組入額合計	△326,597	0	△506,774	△157,313	△317,290
消費収入の部合計	6,179,257	7,130,460	6,561,283	6,884,453	7,076,832

科目	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
人件費	3,348,129	3,513,052	3,592,274	3,693,463	3,658,050
教育研究経費	1,844,017	1,895,576	1,826,355	1,859,862	1,815,885
管理経費	524,054	598,110	572,741	547,993	543,442
資産処分差額	395,833	282,131	565,348	393,708	19,393
徴収不能引当金繰入額	12,578	14,086	6,405	3,770	1,837
消費支出の部合計	6,124,611	6,302,955	6,563,123	6,498,796	6,038,607
当年度消費収支差額	54,646	827,505	△1,840	385,657	1,038,225
前年度繰越消費収支差額	2,246,631	2,301,277	3,610,205	5,010,487	5,396,144
基本金取崩額	0	481,423	1,402,122	0	0
翌年度繰越消費収支差額	2,301,277	3,610,205	5,010,487	5,396,144	6,434,369

主な財務比率(5ヵ年)

科目		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	算式
消費収支計算書	学生生徒等納付金比率	80.2%	79.4%	82.3%	83.0%	79.7%	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$
	人件費比率	51.5%	49.3%	50.8%	52.5%	49.5%	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$
	教育研究経費比率	28.3%	26.6%	25.8%	26.4%	24.6%	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$
	帰属収支差額比率	5.9%	11.6%	7.1%	7.7%	18.3%	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$

貸借対照表の推移(5カ年)

(単位：千円)

科目	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
固定資産	38,912,858	39,196,638	39,634,755	39,619,376	40,079,179
流動資産	3,913,575	4,420,306	4,514,830	4,999,864	5,739,209
資産の部合計	42,826,433	43,616,944	44,149,585	44,619,240	45,818,388
固定負債	1,537,395	1,510,521	1,420,275	1,314,056	1,217,153
流動負債	1,439,373	1,429,253	1,547,206	1,580,109	1,520,645
負債の部合計	2,976,768	2,939,774	2,967,481	2,894,165	2,737,798
基本金の部合計	37,548,388	37,066,965	36,171,617	36,328,931	36,646,221
翌年度繰越消費収支差額	2,301,277	3,610,205	5,010,487	5,396,144	6,434,369
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	42,826,433	43,616,944	44,149,585	44,619,240	45,818,388

主な財務比率(5カ年)

科目		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	算式
貸借対照表	固定資産比率	90.9%	89.9%	89.8%	88.8%	87.5%	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$
	固定負債比率	3.6%	3.5%	3.2%	2.9%	2.7%	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$
	流動比率	271.9%	309.3%	291.8%	316.4%	377.4%	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
	自己資金比率	93.0%	93.3%	93.3%	93.5%	94.0%	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$

(注) 自己資金=基本金+消費収支差額

総資金=負債+基本金+消費収支差額

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

役員	
理事長	松下正幸
副理事長	中内仁
副理事長	松田基
理事	松林靖明
理事	清水 洵
理事	北市哲朗
理事	森田勝昭
理事	芦田徹郎
理事	荒賀直子
理事	清水俊成
理事	近藤三津枝
理事	有澤美弥子
理事	南保子
理事	熊谷信昭
理事	銭高一善
理事	伊藤 勲
理事	吉沢英成
監事	小笹定典
監事	吉松典子

評議員	
馬場伸彦	松下正幸
梅崎高行	中内仁
前川幸子	松田基
山田幸弘	銭高一善
矢野裕丈	北市哲朗
金延重光	熊谷信昭
宮内学	俵正市
松林靖明	近藤三津枝
清水 洵	伊藤 勲
森田勝昭	吉沢英成
芦田徹郎	平生誠三
荒賀直子	中村啓子
清水俊成	明石 巧
阿部菜穂子	平岡雄一郎
南保子	鈴木俊茂
有澤美弥子	湊 幸雄
青井さゆき	平山一哉
高木泰子	武蔵敦子
	玉井弘子

理事	17名
監事	2名
評議員	37名

甲南女子学園 事務組織図

(平成26年3月31日現在)

は、法人管理運営組織

